

# 国立大学法人山形大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域及び国際社会との連携並びに不断の自己改革の基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程教育を通じ、自律した一人の人間として力強く生き、他者を理解し、ともに社会を構成していく力を養うこと等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、基盤教育導入科目「スタートアップ・セミナー」の実施、応用・実践的な内容の「アドバンストセミナー」の導入、教育のさらなる改革や改善のため学内外の学識経験者による構成する「アドバイザーボード」の設置等の学士課程教育を重視した人材養成を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長行動指針「結城プラン 2012」で策定した課題について、各理事を中心に改革・改善に取り組み、55項目(85%)が達成されている。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、  
③資産の運用管理の改善)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 調達における競争性をより高めるため、これまでの全省庁統一資格に加えて、山形県の競争入札参加資格を有する者を公開見積競争の参加者資格に、新たに追加している。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成24年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 教員が実験で得られたデータの中から都合の良いデータを選択し解析を行い、その結果を学会で発表していた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 初年次教育の基盤教育導入科目「スタートアップ・セミナー」の共通テキスト『なせば成る!』の内容をアンケート調査を踏まえてさらに充実させるとともに、基盤教育の充実を図るため応用・実践編として「アドバンストセミナー」を平成25年度後期科目として開設する準備を進めている。
- 学位授与方針等について点検し、教育の更なる改革や助言等を行う組織として学内外の学識経験者からなる「アドバイザリーボード」を設置し、さらに、平成25年度か

らカリキュラム編成の責任者として教育ディレクターを設置することとしている。

- 有機エレクトロニクス研究センターでは、有機エレクトロルミネッセンス (EL)、有機太陽電池、有機トランジスタの基礎研究の取組状況を国際シンポジウムで紹介するとともに、平成 25 年度には有機エレクトロニクスイノベーションセンターを開設して実証・応用への橋渡しを行うこととしている。
- ペルー共和国におけるナスカ地上絵研究の研究推進拠点として、人文学部附属ナスカ研究所をナスカ市に設置し、「地上絵の分布図作成と保全」及び「アンデス文明の盛衰と環境の関係の解明」等の研究活動を展開している。
- 東北創生研究所（平成 24 年 1 月設置）では、「社会創生」「産業構造」「食料生産」の 3 部門の研究概要を紹介するキックオフ・シンポジウム「50 年後も発展し続ける社会を目指して」を開催（約 150 名が参加）するとともに、研究対象となるモデル地区を選定するなど、自立分散型社会システムの構築に関する取組を推進している。
- 地方自治体、商工会議所等と連携し、県内 4 地域(村山、置賜、庄内、最上)で「山形県民シンポジウム」を開催し、それぞれの地域課題について情報を交換するとともに、人材育成の重要性等の協議を行っている。
- 「留学生交流拠点整備事業」で、地元高等学校の英語部の活動に留学生が参加して英語で交流を深めるとともに、企業合同説明会等を開催して就職支援を強化するなど、県内の留学生と地域との交流等による地域社会の活性化等を図っている。

## **附属病院関係**

### **(教育・研究面)**

- キャリアアップコースと復職支援のための潜在看護師研修コースから成る看護師リフレッシュ研修に 34 名を受け入れ、看護師のレベルアップを図っている。

### **(診療面)**

- 山形県が指定する三次周産期医療機関と置賜地域の二次周産期医療機関、かかりつけ医療機関との間を IT で結んで、周産期医療情報ネットワークの運用を開始し、妊産婦に係る情報の共有を行っている。